「ふるさとの山はありがたきかな」
～豊かな体験活動のすすめ～

郷土の先人・石川啄木は、日常の生活を題材に、話し言葉を書き言葉にしながら、短歌を３行で表しました。これは、当時の短歌にはなかったことだそうで、短歌の新しい世界を広げたと言われています。また、啄木の短歌や詩は、「民衆の詩」とも呼ばれました。一般庶民の気持ちや思いを代弁しながら、短歌や詩に表したとも言われ、日本の文学の世界に大きな影響を与えました。

その啄木が詠んだ短歌に、皆さんもご存知の次の短歌があります。

「ふるさとの山に向かいて
言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな」

啄木にとっての「ふるさとの山」は、生まれ故郷の盛岡市渋民から見える岩手山なのだろうと思います。ふるさとを離れ、全国を転々として歩いた啄木だからこそ、子供の頃から見守ってくれていたふるさとの岩手山を心の支えにしていたのではないでしょうか。

盛岡市内から眺望できる岩手山

人には、それぞれふるさとの原風景があり、ふるさとへの豊かな思いを抱いています。それは、子供の頃にふれた身の回りの何気ない自然や、日常の人とのふれあいなどの体験や交流を通して心に刻まれていくのだと思います。

この体験活動には、主に自然体験活動、生活体験活動、社会体験活動があり、これらのことは、子供たちがすこやかに成長するにあたって、欠かすことのできないことです。昔であれば、子供たちの日常生活において、仲間とともに遊んだり、地域の中で生活をしたりすることを通して、多様な体験を積み重ねながら成長していくことができました。

しかしながら、平成 25 年１月に中央教育審議会から答申された「今後の青少年の体験活動の推進について」では、今の青少年を取り巻く環境について、「心や体を鍛えるための負荷がかからないいわば『無重力状態』」であり、青少年の健全育成にとって深刻な状態」であると危惧しています。その上で、「体験活動は人づくりの『原点』であるとの認識の下、未来を担うすべての青少年に、人間的な成長に不可欠な体験を経験させるためには、教育活動の一環として、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが求められている」としています。

このことを踏まえ、学校教育における体験活動の推進を始めとして、社会全体による体験活動の推進等について提言しています。

このような中、平成 31 年２月に国立青少年教育振興機構から「青少年の体験活動等に関する意識調査（平成 28 年度調査）報告書」が公表されました。概要として次のことがあげられます。

まず、各体験活動の現状と経年推移に関する報告では、自然体験や生活体験、お手伝いについては、具体的項目によって「何度もある」「少しある」等の肯定的割合の高低はありますが、この約 10 年間で概ね増加傾向にあります。

また、自然体験や生活体験が豊富な子供ほど自己肯定感が高い傾向があるそうです。よくお手伝いをしたりする子供についても、同様の傾向があると報告されています。【グラフ１～３】

さらに、今回の調査においては、これからの多様で変化の激しい社会において必要とされる社会的自立の基礎となる資質能力の一つとして、自立的行動習慣に着目しています。その自立的行動習慣と体験活動との関連性についても報告されており、自然体験や生活体験が豊富であったり、よくお手伝いをしたりする子供のほど、自立的行動習慣が身についている傾向がうかがえるそうです。そして、この自立的行動習慣（自律性、積極性、協調性）が身についている子供ほど、自己肯定感が高い傾向があると報告されています。【グラフ４～６】

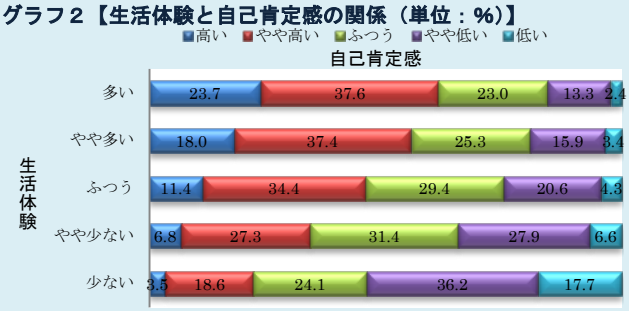
これらのことから、自己肯定感と自立的行動習慣をつなぐ重要なこととして、体験活動を意義づけています。

自分自身を認めることができることは、自分のルーツであるふるさとや家族、友人など、自分に関わる人やものなども認めることができることにつながります。さらに価値観の多様化が進むこれからの社会を生きるにあたって、自他を認めて共に生きることは重要なことです。体験活動は、その基となる自己肯定感を高め、自立的行動習慣を身に付けるために有効な活動の一つです。この意義を踏まえ、地域を舞台にした豊かな体験活動の機会の充実を一層図りたいものです。一人一人のふるさとの原風景も共に育みながら。

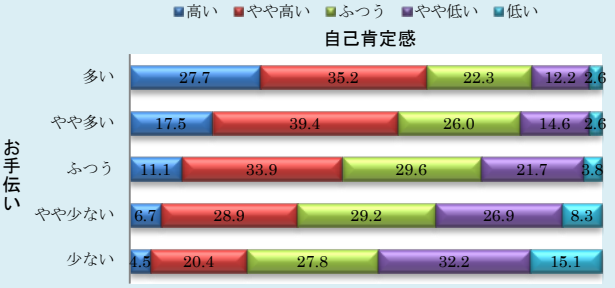
（所長　藤原　安生）

グラフ１【自然体験と自己肯定感の関係（単位：%）】

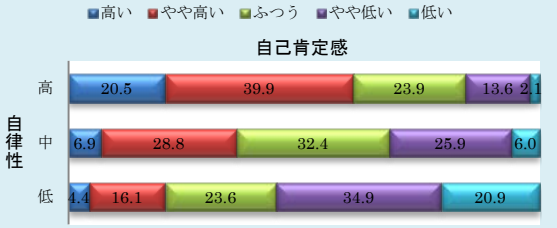
グラフ２【生活体験と自己肯定感の関係（単位：%）】



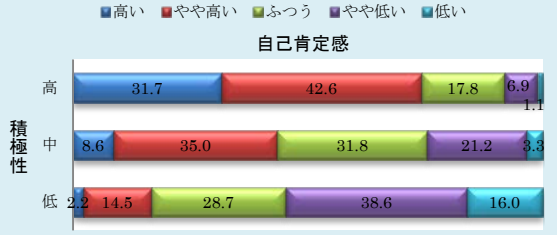
グラフ３【お手伝いと自己肯定感の関係（単位：%）】



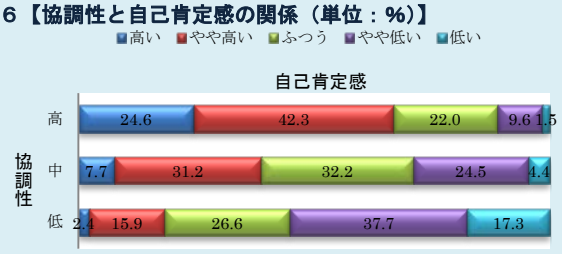
グラフ４【自律性と自己肯定感の関係（単位：%）】



グラフ５【積極性と自己肯定感の関係（単位：%）】



グラフ６【協調性と自己肯定感の関係（単位：%）】



「青少年の体験活動等に関する意識調査報告書」

国立青少年教育振興機構（H31.2）

「地域学校協働活動」の推進がもたらした変化とは何か

はじめに

「地域学校協働活動」という言葉が使われるようになって数年が経過しました。平成 29 年３月の社会教育法改正により、同活動に関する連携協力体制の整備や「地域学校協働活動推進員」に関する規定の整備が行われたことは御承知のとおりですが、「教育振興運動」をはじめ、地域と学校が連携・協働した活動がこれまでも行われてきた本県においては、「地域学校協働活動」と既存の活動の違いについて、様々な場面で議論されてきたところです。

「地域学校協働活動」とはどのような活動か

「地域学校協働活動」は、平成 27 年 12 月の中教審答申において、「地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく活動」と定義されています。

本県では、教育振興運動を含め、「地域学校協働活動」を下記のとおり整理しています。

個々の活動そのものは、これまでも県内各地で取り組まれてきたものであり、私たちにも馴染みのあるものです。言い換えると、活動の内容自体に大きな変化はないということになります。それでは、次のような活動は「地域学校協働活動」と言えるのでしょうか。

活動例「親子キャンプ」
- 夏休み中に実施する地域行事
- 地区公民館と教育振興運動実践組織が連携して実施
- 企画及び運営に学校は関わらない

キーワードは「目標共有」

答えは「YES」です。ただし条件があります。

地域学校協働活動は、地域と学校が一緒に何かをすることではありません。地域学校協働活動とは、地域と学校の目標共有に基づき行われる活動です。つまり、「目指す子どもの姿」を共有し、その実現に向けて地域と学校が取り組む活動こそが地域学校協働活動なのです。上記の「親子キャンプ」は、企画・運営に学校が関わらないから、地域学校協働活動ではないと捉えられがちですが、「郷土を愛する子ども」を育成するという共通の目標に沿って地域が実践する活動であるならば、その活動は紛れもなく「地域学校協働活動」と言えるのです。

「学校を核とした地域づくり」は進んでいるのか

地域学校協働活動の推進により目指すのは、子供の成長のみならず、様々な立場の大人が協働という関係を構築すること、つまり「学校を核とした地域づくり」と言うこともできます。ここで言う「地域づくり」とは、具体的にどのようなことなのでしょうか。そのヒントとなる言葉や取組を紹介します。

先日、県内で活動する地域コーディネーターから話を聞く機会がありました。あるコーディネーターは、「今まで話したことのなかった方と世間話で笑い合えたこと。仮設住宅の方を気づかう地域の方とお話しできたこと。自分を信頼してくださる方が地域の中に増えたこと。こちらからのお願いを快く引き受けてくれる方ができたこと。このようなことが、私のやりがいです」と話していました。別のコーディネーターは、「ひとりでも多くの地域の方々との関わりを通して、これからも活動していきたい。」と話していました。

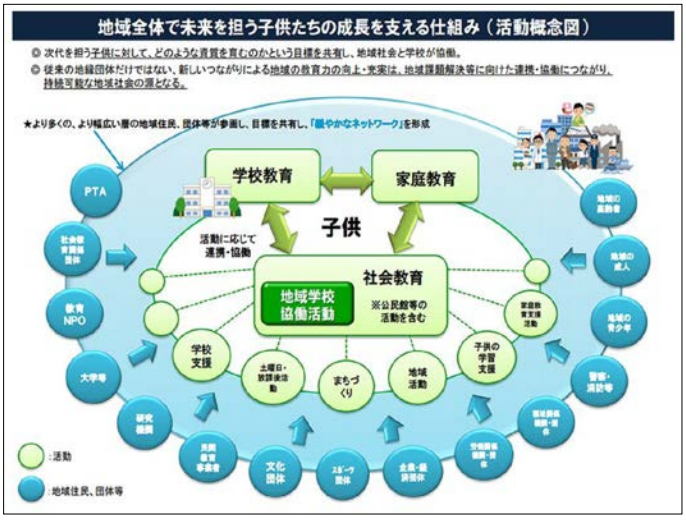
また、国の補助事業を活用する県内自治体の事業評価においては、放課後子供教室の学習サポーター等による「新たな活動協力者確保のための自己発信」や「本事業以外の教育活動への参加」が近年増加傾向にあると報告されています。

これらの事柄に共通しているのは、いずれも先に示した様々な立場の大人が協働という関係を構築するという視点に立ち、自身の活動を語ったり、実際に活動したりしているということです。

個々の活動に大きな変化はないかもしれません。しかし、活動に関わる方々の意識には変化がみられます。「地域学校協働活動」という新たな風に乗り、地域と学校の「目標共有」に基づき、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」を目指し、より多くの地域住民の参画を得て活動の幅を広げていく。このような取組を着実に進めることで、おのずと「学校を核とした地域づくり」が進んでいくものと考えます。

先に示した地域コーディネーターや学習サポーターの言動は、私たちが今後目指すべき連携・協働の姿を示しています。成果は表れています。自信をもって前に進みましょう。

（生涯学習文化財課　地域学校連携担当）



市町村事業の紹介　花巻市 生涯学習部

花巻市生涯学習部から、特色ある事業について寄稿いただきました。

花巻市はご存知、作家の宮沢賢治の生誕地ですが、最近では大リーグで活躍中の菊池雄星投手や大谷翔平選手を輩出している花巻東高等学校の所在地としても知られるようになっています。

ここでは、花巻が行っている特徴のある事業と、今年度からの新規事業をご紹介します。

～先人を伝える～「はなまき賢治セミナー」

はなまき賢治セミナーは、郷土の先人「宮沢賢治」についての理解を深め、「賢治さんを語れる市民」を増やすことを目的に実施している講座で、今年で８年目を迎えます。

今年度は、受講生がお気に入りの賢治作品を紹介する「ポップ作り」や、賢治作品ゆかりの地を巡る「移動研修」を行っています。また、宮沢賢治についての優れた研究や関連作品等を発表された方に贈られる「宮沢賢治賞、イーハトーブ賞」の受賞式に参加することもプログラムの１つに加えています。受講後は賢治さんに関するガイド役として、花巻観光協会の観光ボランティアガイドに登録できることになっています。しかし、なかなか登録するまでいかないですが、学んだ成果を生かして一人でも多く、賢治さんを語ることができる人材が増えればいいなと思っています。

はなまき賢治セミナーの様子①

はなまき賢治セミナーの様子②

～地域の宝を育む～「赤ちゃん教室」

花巻市では、未来を担う子どもたちが家族と一緒に健やかで安心して成長できる環境づくりを目指し「家庭教育支援事業」を実施しています。今年度はお孫さんを持つ方を対象とした「まごまごしない“孫“入門講座」と新米パパやママを対象とした「赤ちゃん教室」を実施します。

今年度の新規事業として開催する「赤ちゃん教室」は、保健センターで実施している健診や講座の内容をさらに掘り下げ、より具体的なテーマを取り上げて実施しています。内容としては、赤ちゃんがいるご家庭の災害時の適切な対処法として、赤ちゃんでも食べられる非常食や簡易オムツを作る体験を行いました。その他、赤ちゃん１人１人に合う抱っこひもの選び方など実践を中心としたプログラムを組んでいます。参加される方はすでに赤ちゃんのいるご家族が多く、受講者相互の交流も生まれています。また、それぞれ家族間の役割を改めて認識するとともに、子育てに対する考え方の共有を図るきっかけの場となりました。実はこの教室に一番参加して欲しかったのは「パパ」で、どうしたら参加していただけるのか、「パパ教室」ではハードルが高い？など教室のネーミングから悩みました。でも最終的には、シンプルに主役である「赤ちゃん」を前面に出すことで、パパもママも家族一緒に参加する教室として着地できたと思います。

赤ちゃん教室の様子

核家族が進む中、今一度「家族」を考えることができる素敵な教室として続けていけたらいいなと思っています。

「岩手県立生涯学習推進センター情報」第１０１号　／　編集・発行　岩手県立生涯学習推進センター

〒025-0301 花巻市北湯口 2-82-13　電話 0198-27-4555　FAX 0198-27-4564